

事例論文の講読・検討中心の授業実践について

学校臨床心理専攻・信原孝司

1. 授業の概要

臨床心理面接特論Ⅱは、心理臨床の専門性について、特に臨床心理学における事例研究の視点から学ぶことを目的とした授業である。この科目は、臨床心理士を目指す大学院生にとっては必修科目であり、履修者のほとんどが臨床心理士資格の取得を目指していることが特徴である。授業時間は、後学期の毎週水曜日3時限目であった。

2. 導入

授業では、昨年度における学生の授業評価などを参考にして授業構成を検討した。

まず、初回では、授業予定を学生に周知徹底するようにしている。これによって学生は今後の見通しを持って授業に取り組み、事前に必要な分野を予習して習熟を深められる、などの効果を期待している。

今年度は、以下の授業内容で実施した。

授業回	水曜日3時限目
1	オリエンテーション，共感について
2	事例理解について
3	臨床心理事例1【不登校】
4	臨床心理面接1【不登校】
5	臨床心理事例2【神経症】
6	臨床心理面接2【神経症】
7	臨床心理事例3【パーソナリティ障害】
8	臨床心理面接3【パーソナリティ障害】
9	臨床心理事例4【心的外傷】
10	臨床心理面接4【心的外傷】
11	臨床心理事例5【軽度発達障がい】
12	臨床心理面接5【軽度発達障がい】
13	映画を通して臨床心理面接を考える
14	ディスカッション
15	振り返り・レポート提出

3. 授業形式について

I. 1回目，2回目の授業は，授業実施者（以下，授業者とする）が講義形式で行った。

II. 臨床心理事例

臨床心理事例1～5は，以下の形式で行った。(1)学生の希望に沿って決めた担当グループが，担当テーマ（例えば「不登校」など）に関する先行研究論文などを事前に読み解く。(2)そのテーマに応じた発表レジュメをまとめる。(3)授業当日，担当グループが自分達の進行でレジュメに沿って発表し，ディスカッションを行う。

なお，発表用のレジュメは，(1)テーマに関する臨床心理学的な説明，(2)テーマに関する用語解説，(3)テーマに関する臨床心理面接アプローチについて，などの項目をまとめるよう，授業者よりオリエンテーション時に指示した。

また，担当グループは，発表する前の週に，担当グループ以外の履修者へ事例論文を配布するようにした。履修者はその論文を事前に読み込み，自分が考えたこと（ディスカッションしたいこと）を，A4用紙1枚にまとめて，次週の授業に臨んだ（レポートは授業終了時に授業者に提出）。

事前配布の事例論文は，日本心理臨床学会が公刊する学術雑誌『心理臨床学研究』から，力動的（深層心理的）アプローチの1事例を，担当グループが選ぶこととした。当日は事例理解のための情報や考察の観点，自分達の事例理解などをレジュメで提示し，履修者とのディスカッションを通して事例理解を深めた。

III. 臨床心理面接

臨床心理面接では，臨床心理事例での担当者グループの発表やディスカッション内容を踏まえて，授業者が講義形式で授業を行った。また，臨床心理事例の授業終了時に，授業者が選んだ事例論文を配布し，次週の臨床心理面接の授業時まで精読しておくよう指示した。

4. 授業内容について

1回目，2回目の授業，臨床心理事例，臨床心理

面接、映画で取り上げた主な授業内容は、次の通りであった。

I. 1回目、2回目の授業

1回目は授業のオリエンテーションを兼ねて行った。今後の授業の進め方の説明の後、「共感について」というテーマを授業者から履修者に与え、自由連想的にディスカッションを行った。

2回目は、河合隼雄の「学校恐怖症」の事例論文を読み進めながら、ディスカッションを行い、事例理解の大切さ、意義などについて理解を深めた。

II. 臨床心理事例

【不登校】

スクールカウンセラーとして不登校生徒に関わった事例論文の検討を注進し、不登校の現状、スクールカウンセラーについて、保護者や担任との連携について、などの理解を深めた。

【神経症】

事例論文は不安神経症に関するものを取り上げ、精神病、心身症、神経症の相違について、パニック障害について、神経症と生育歴との関連について、などの理解を深めた。

【パーソナリティ障害】

事例論文では境界例と共感に関する事例論文を取り上げ、パーソナリティ障害の定義、各種のパーソナリティ障害について、心理療法による援助、DSMとの関連について、などの理解を深めた。

【心的外傷】

事例論文では被虐待事例を取り上げ、PTSD概念について、その歴史の変遷、診断基準、主な症状、治療技法について、などの理解を深めた。

【発達障害】

事例論文ではADHDの事例を取り上げ、DSMの診断について、精神発達遅滞について、学習障害について、広汎性発達障害についてアスペルガー障害について、ADHDについて、などの理解を深めた。

III. 臨床心理面接

臨床心理面接では、特に、臨床心理事例での発表で取り上げられなかった、あるいは希薄であった領域を中心に上げた。具体的には次の通りであった。

【不登校】

不登校概念の定義、不登校概念の歴史の変遷、不登校のタイプ例、不登校の経過例を取り上げた。ま

た、事例論文では不登校の高校生の事例を取り上げた。また、「仮に登校を強要し続けたら」の論文も配布し、登校刺激について問題提議し、講義とディスカッションを通して理解を深めた。

【神経症】

事例論文では、神経症の中でもより問題の深い、自己臭恐怖と視線恐怖の事例を取り上げた。その中で、DSMと神経症概念の変遷について、神経症と心理的防衛機制について、特に強迫神経症の心理的防衛機制について、講義とディスカッションを行い、理解を深めた。

【パーソナリティ障害】

事例論文では、青年期境界例の中断事例について取り上げ、境界例と心理療法について、理解と対応、境界例概念について、境界例の理解モデルについて、講義とディスカッションを行い、理解を深めた。

【心的外傷】

事例論文では被虐待事例を取り上げ、PTSD概念について、その症状、歴史の変遷について、児童虐待について、心理的防衛機制としての解離について、PTSDへの対応について、講義とディスカッションを行い、理解を深めた。

【発達障害】

事例論文では、発達障害事例での心理療法における沈黙に関する事例を取り上げ、発達障害における環境と素因について、発達障害と支援について、発達障害の分類について、特に精神遅滞と境界知能について、広汎性発達障害について、アスペルガー障害について、軽度発達障害について、講義とディスカッションを行い、理解を深めた。

III. 映画

映画は『Another Woman』（邦題『私の中のもう一人の私』）を取り上げ、視聴とディスカッションを行った。またこの映画はレポート課題でもあり、レポートでは以下の課題を指示した（最初の2つが映画に関するもの）。

(1) Marionの生育歴を踏まえ、映画の中での彼女の心理的な変化、対人関係の変化について、臨床心理学的に考察せよ。

(2) 映画をあなた独自の視点を用い、自由に論考せよ。

(3) 後期授業からあなたが学んだ点について論考せよ。

(4)後期授業の実施内容・方法についての感想を自由に書いて下さい。

5. 授業を振り返って

レポートでの学生からの授業評価を中心に、授業を振り返ってみたい。

学生からのコメントでは、とても多くの心理臨床課題について学べることが出来て有意義であった、とのコメントが多かったが、その一方で、多くのことを盛り込み過ぎ、特に担当グループでの発表時に時間が足りなかった、準備が不十分になってしまったとのコメントもあった。授業者としては、これでも取り上げる課題を絞り込んだつもりであったが、履修者の視点に立つと、授業内で取り上げる内容と、予習に必要な時間も合わせ、非常に盛り沢山な内容であったとも考えられた。このことは、来年度以降の検討課題である。

授業形態では、授業者からの講義、担当グループの発表と授業者からの補足講義を重ね、締め括りに心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという形への支持は多く、来年度もこの形態を継続したいと考える。

授業で取り上げる内容は盛り沢山だったこともあってか、授業でのディスカッションはとても活発に行われた。担当グループを中心に自分達で取り組んだ部分も多く、積極的な授業参加となったことは、授業者の意欲にも繋がった。また、ディスカッションを通して、自分以外の多様な意見を知れた意義についても、履修者のコメントでは多く記されていた。